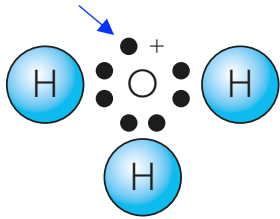
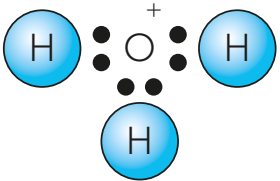


## 『改訂第2版 診療放射線技師 スリム・ベーシック 放射線生物学』正誤表

『改訂第2版 診療放射線技師 スリム・ベーシック 放射線生物学』（2021年3月10日 第2版第1刷）において誤りがございました。

ここに深くお詫びいたし、訂正申し上げます。

(2021年3月24日 メジカルビュー社編集部)

ページ	該当箇所	誤	正
p.26	図4	 <p>ヒドロニウムイオン</p> <p>矢印で示した電子を示す黒丸が不要</p>	 <p>ヒドロニウムイオン</p>
p.122	本文 上から11行目	増殖が速い骨髄や皮膚、消化管上皮などの早期反応組織および一部の腫瘍組織では、 $\alpha/\beta$ 値は小さくなり、	増殖が遅い、またはしていない神経や腎臓などの晩期反応組織では、 $\alpha/\beta$ 値は小さくなり、
p.122	本文 上から12行目	増殖が遅い、またはしていない神経や腎臓などの晩期反応組織では、肩が小さくなる（図14b）。	増殖が速い骨髄や皮膚、消化管上皮などの早期反応組織および一部の腫瘍組織では、肩が小さくなる（図14b）。
p.122	本文 下から4行目	放射線治療では、正常組織の $\alpha/\beta$ 値が大きく、腫瘍の $\alpha/\beta$ 値が小さいときに治療効果が大きくなる	放射線治療では、腫瘍組織の $\alpha/\beta$ 値が大きく、正常細胞の $\alpha/\beta$ 値が小さいときに治療効果が大きくなる
p.123	図15	上：放射線治療効果が大きい 下：放射線治療効果が小さい	上：放射線治療効果が小さい 下：放射線治療効果が大きい
p.139	下から3つ目 「時間的線量配分」の内容	早期反応組織で小さくなり、晩期反応組織で大きくなる。	早期反応組織で大きくなり、晩期反応組織で小さくなる。